

今月は近くの中学校へ出前授業に行ってきた話を書こうと思っています。
2017年10月27日 6時限(2時40分～3時30分)の50分間です。
プロジェクターも使わずに、というか使えないもので●印に沿って話を進めました。

「花屋の仕事は、お客様の話や自分でデザインをするとき、頭の中で、心で、想像して、絵を描く事が出来ないとできません。」と話をしたうえで話し始めました。

毎週土曜日に花ボラ(一年を通して6人の方達と8年間、ボランティアとして花壇の手入れに来ています)で来ていますのでご存知と思います。

花ボラで学んだ多くのことの一例を紹介します。

植物の事を本や聞いたこと、学んだことをお客様に伝えるとき、その知識で持って話をしていたのですが、花ボラに来るようになってから、花壇の手入れを実際自分で体験するようになりました。春に植えているペチュニアの花ですがこの花の葉は、ベタベタと粘着力があります。何故かと調べてみますと、アブラムシ(家にいるゴキブリの事でなく植物につく小さい2mm位の虫)が付かないようにと植物が考えたものです。アブラムシがいない外国のある地方では普通の植物のようにサラサラです。

実際に体験してみると、今まで以上に知識も増え話の幅も広がり、経験したことにより説得力があります。

- フロリスト花正について
 - ✓ 私の実家は、今も花屋を営んでいるのですが、100年近くになります。場所は、京都東山 泉涌寺 に有ります。近くには三十三間堂やモミジで有名な東福寺の近くにあり、泉涌寺は皇室の御墓があり御寺(みてら)泉涌寺と呼ばれています。
 - ✓ 何故100年近くも、長く続いているか? つづけられたか?その一端をこれからお話しします
- 挨拶について(心を込めて)
 - ✓ 人としての基本(お客様は無論の事、店の前を通行する人。運送会社の人。配達の人にも明るく笑顔で挨拶)
 - ✓ 2,3日前テレビで芸能人の方がラーメン屋さんを経営しておられる話があり、繁盛している店の秘訣はと尋ねられた時の返事が「味は無論のことですが、それよりも大事なことは、全員が挨拶をはじめ、明るく笑顔で接客する事です。」との事です。
 - ✓ 忙しい時など、ついイライラして接客しがちですが、接客態度がすぐに

お客様に伝わり、お客様が「花でも買って気持ち良く」と思っておられるのに1000円の花でもその価値はなくなり、新しい花でも萎れて見えるぐらいで、1日が暗い気持ちです。その反対に、接客が良いと花が2000円にも3000円にも思えるぐらいで、1日得したような気分で明るく過ごせます。

- ✓ 楽器の演奏者がよく言われることですが、譜面通りに忠実に引いているのに先生からは「OK」が出ない。何度やり直しても駄目。譜面の内容をよく理解し、身体全体で心を込めて演奏すると、音色が変わるそうです。また、最近、コンビニがたくさん出来たお蔭でマニュアル通りの接客はできます。しかし、心のこもった接客のできる人は極わずかと感じる人が多いそうです。
- ✓ この間も友達と映画を観に行ってきたのですが、その時のチケット売り場での事です。
- ✓ シニアですと1300円のチケットが1100円になるので友達と免許証を提示して「チケットを2枚ください」「シニアの方ですね」「そうです」と言って2500円を出すと、チケットを出しつつ「シニアの方ですね」との念押し、さらに3度目のお釣りを渡しながら「シニアの方ですね」。マニュアル通りの接客。後でですが友達と「私らは、そんなに若く見えるのかな？」耳が遠くなり「の方ですね」が聞こえなければ「死にや」「死にや」としか聞こえへんな。と冗談を言った次第です。

● 社是 ・ 探究 ・ 実現 ・ 感謝 ・ 奉仕

- ✓ 常に「どうすれば」という「工夫する事」を念頭に置いて考える。
- ✓ どうすればお客様に喜んでいただけるか？ どうすればよい商品をお届けできるか？

● 10月の勉強会

- ✓ 商品売る前に、感動を伝える。
それには自分自身も1日1回感動することを見つけよう。
- ✓ 人の役に立ち、喜んでいただける商品。心と身体を元気にする商品。
例えば、元気になる色は黄色、オレンジ色を使うと良い。
- ✓ 人は誰かを想い、伝えたい感謝や愛情、言葉にできない心を花に託して贈ります。
20歳25歳になって、ガールフレンドが出来た時。自分の思いを赤いバラ（花ことばは熱烈な愛、情熱的）の花に託し、贈るのも良いのでは、と思います。

- ✓ 決して、がっかりさせて帰らせてはいけない。

✓ 季節感を出す。

➤ 季節によって包装の仕方や、店内の色を変える。

人の一生と同じように生まれたての時は、嘴（くちばし）が黄色い、お尻が青い、少年時代は黄緑、青年期はピンク、恋が発展して燃えるような赤、火が消えかかると白っぽい銀色になり、土に帰っていき黒色に。

四季も新芽の出る初春のころは黄緑、黄色。木のもので、まず一番先に咲くといわれる万作の黄色、福寿草、タンポポの黄色。春になると、桃、桜などのピンク。夏には真っ赤なハイビスカス、アンズリュウの赤などがよく似合います。秋には実のもの、ススキ、リンドウの紫、冬になると常緑樹は深い緑になり、落葉樹は冬を演出するかのような味わいのある姿になります。

店の中も、例えばカウンターの上を春ならライトグリーン、秋ならブラウンの色に変えてみると少しは季節感が出るのではと考えます。

● 花屋を通じて日本の文化を伝える

■ 伊勢神宮は20年に一度社殿を新しく造営する遷宮の儀式が行われています。この時に、殿上や庭を飾る、御装束、神宝も新しく調整され、その種類は714種1576点にもなり紡績具、武具、馬具、文具、日常用品など材質や用途そして技法が確実に次の時代へ受け継がれる。

■ 社殿やそのほかにでも使用される木材は古式の作法にのっとり木曾の御杉山（みそまやま）から切り出しを行われている。

木曾の山は、他の日本の山々と違い木々も社殿に使用されるので間伐や枝打ちなどが、しっかりおこなわれているし、714種におよぶ品々、このようなことから大変多くの方々が社殿の造営にかかわっておられ、確実に次の世代へ受け継がれる。またその経済効果もかなり大きいものと考えられます。

お正月の準備は「お正月事始め」と言って、12月13日より準備を始める。

✓ 掃除をして歳神様を招こう

➤ 新しい年の福をつかさどる「歳神様」を家に招き入れる。

➤ 汚れ（穢れ）を除いて家を清浄にする。

➤ 「玄関の神様」「トイレの神様」「台所の神様」「水回りの神様」様々な神様が家を守っています。

➤ 神様の居心地がよくなるように掃除をすれば福を授かるだけでなく、

貧乏神、疫病神など不運を寄せ付けない事に繋がります。

- 心静かに、花を生ける（1年の反省と新しい年の希望に燃えた目標をたてる）

✓ しめ縄の話

- 結界（けっかい）を表しており、「しめ」は禁忌の意味です。しめ縄をかけた内側が清浄な状態に保たれる事を示します。

- しめ縄につけてあるものにはそれぞれ意味があります

1. 裏白

シダ科の植物で夫婦ともに白髪が生えるまで末永く幸せに生きることを願っていること。隠花植物の地下茎が長く伸びることから歳を伸ばすと信じられ、胞子でたくさん増える事から子孫繁栄を願っている

2. 御幣（ごへい）

神祭用具の一つ。白または金銀の紙を挟んだもので神様を招くもの。

3. 橙（だいだい）

実の臍（ほぞ）に台が2つあるので「だいだい」と命名
子孫代々続くように、秋に実が結実したまま春を迎え、秋の緑色から黄色に変化し、実をつけたまま年を越すので縁起が良い。

4. ユズリハ（親子草）

代々家系を受け継ぎ、譲ること。新しい葉が出ると古い葉は全部落ちる

✓ 除夜の鐘

- 108つの煩惱を洗い清めるためです。

- 百七つめは「最後の宣明」といい、行く年の最後に鳴らし煩惱が去ったことを宣告し、百八つ目は「最初の警策（きょうさく）」といい、来る年の最初について、新たなる年を迎えるに、あたって煩惱に惑わされないように、眠りを覚ますといわれています。

● お叱りを受けた時

- ✓ どんなに忙しい時でも、直ぐにお詫びに伺う。

- ✓ 心より詫びる。同じ失敗を繰り返さないように対策を立ててから

以上の様な話をしてきたのですが、今回も反省点があり来年は生徒が一番に飽きないような演出を考えねばと、思っています。

生徒達からの感想文が楽しみです。

2017年10月31日 西井 忠義